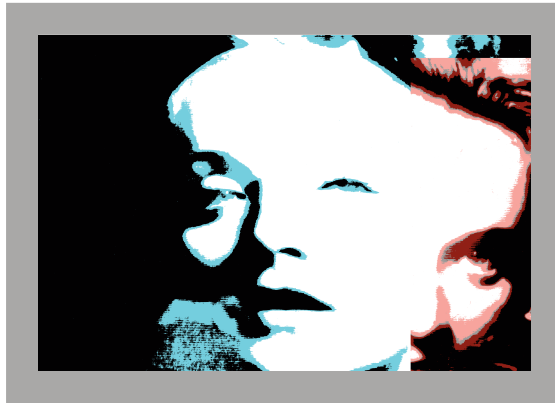


# 賀春 2011



「Dの像」より

## 近況ご報告

今年も、皆様とともに新年を迎えることができる喜びと感謝に、感慨深い思いをしております。

昨年は、「無用な「減法混色用語無用論」は載せるが先端カラーノウハウは突き返す、科学の発展に寄与すべき学会の姿勢にあらざると異議申し立てを行い」と書きましたが、質問に答えない問題は「再審査請求においてのみすべてに回答」という偽装勧誘に乗って不合格。独房のモンテクリスト伯の心境で迎えた昨年春のとある日、それまで調べなかったのも不覚であったが、「色の百科事典」(2005/丸善)を引いて啞然とした瞬間、何が起こったかが判然となった。「色再現」「三原色」は索引にもなく、「減法混色」はあったが解説がまったくない。「混色」もあったが「赤と緑を混ぜると黄色」、色再現関係はまさにチンプンカンプンのその事典は実はその「無用論」執筆者と学会誌編集長所属の公益法人 日本色彩研究所編著であった。色百科事典としては50年前でも失格である。その怠慢、勉強不足\*を隠蔽しようとするとは実に陰湿。

「減法混色」はじめ「色再現」が国民に明快に説明されては色トップ指導者としての面目がない、ということであろう。その学会、研究所の嫌がらせ、その暴論暴挙、発表妨害は法律の枠をも超えていることは明らかであるが、提案とともに理事長に責任を問うたが「責任なし、提案無用」「天才、世に入れられず」にも呆れる。私物化独善世界がここにもある。それを放置する環境、社会は閉塞し滅びあるのみではないか。(\*「科学写真便覧全3巻/丸善」を見よ。50年前、すべてがきちっと書いてある。感動したものである。それに比べ、他の執筆者は別にして、学生、生徒にも及ばない見聞である。)

検察とともに要改革！ 昨年は、「亡国の危機感すら覚える時まで批判し対決の姿勢を明確に」と書きましたが、今年は”びっくりピンク”をメッセージをこめて世に送りだし、より鮮明にいたします。

いまひとつ、「Ink Jetを制御するデジタルプリントノウハウで広告原稿を入稿すると、L52の画像部分の濃度が設定値7番とびたりと一致しその<標準出力>に快哉。」と書きましたが、別の印刷所の広告では濃度が一致せず、原因を究明していくと最後に、「広告製品は印刷調整には使えないことが理解できたか」のパニックメールにびっくり。これまでの感覚調整の世界にモノサシは迷惑ということであろう。「拒絶反応、毀誉褒貶それらもこれまで微々とはいえ着々と色改革を押し進めてきた努力の成果のなんだと自分に言い聞かせ、虎穴に入らずんば虎児を得ず。」も変わりません。はじめにモノサシありきである。

共通するのは、色のシステムすべて、色モノサシ、サービスプリント、印刷調整すべてにおいて基準を設けるという色改革には、学会から業界までの強い抵抗が避けられないことです。しかしその挑戦は一見、勝ち目がないようですが、案外、「王手」がかかっているもう逃れられない「必至」状態にあることに気づいていないのではありませんか。最後には「欺瞞や」「ごり押し」ではなく勝敗は真実が決める。喜寿にしての一匹革命、RW実証色彩学の集大成をめざします。

激動となるであろう今年、皆様も改革の年といたしませんか。明るい未来をつくるために！

皆様のご健康とご多幸を祈ります。2011 元旦

RW Institute / 脇色彩写真研究所

〒185-0013

東京都国分寺市西恋ヶ窪1-12-2 TEL/FAX 042-323-5710

<http://www.mmjp.or.jp/rwicp> TH5R-WK@asahi-net.or.jp

川島リキオ